

人間科学科目（人文科学）

Human Science (Humanities)

リベラルアーツの中核として

◇教室の沿革

1972年4月1日、永守良治教授が歴史学教室、川西友吉教授が文学教室、古道正進講師が哲学教室を開設した。1977年4月1日、歴史学・文学・哲学の3教室が人文科学教室に統合された。

医学や看護学は自然科学と人文・社会科学との複合領域的な性格をもつだけに、医学生や看護学生は文化や社会について幅広い教養を身につけ、人間理解を深める必要がある。人文科学は、本学一般教育におけるリベラルアーツの中核的役割を担っている。

◇歴代教授・教室代表者

永守良治教授（1972-1978年）

1907年富山県富山市生まれ。1931年3月東京帝国大学文学部卒業。日本史専攻。金沢大学教育学部長をへて1972年4月1日に本学教授着任。学生部長、学務部長、教養部長代行を歴任、学歌の作詞者。1983年4月29日付けで、勲三等旭日中綬章を授与される。

川西友吉教授（1972-1978年）

1908年石川県松任市生まれ。1942年3月広島文理科大学文学科卒業。金沢大学附属高等学校教頭をへて1972年（昭和47年）4月1日に本学教授着任。中国文学専攻。詩経の「桑」、論語の「礼」と「知」、古詩の「蘭」についての論文を発表。謡曲クラブ顧問として謡曲を指導。

古道正進教授（1977-1982年）

1912年石川県津幡町生まれ。1938年3月東京帝国大学文学部卒業。石川県立二水高等学校校長をへて1972年4月1日に本学講師着任。哲学・倫理学担当。

平口哲夫特任教授（2003-2011年）

1945年福井県敦賀市生まれ。1969年3月東北大学文学部卒業、1971年3月同大学大学院文学研究科修士課程修了、1974年3月同大学院文学研究科博士課程単位取得満期退学、同年4月1日に本学講師着任。専攻は旧石器考古学、環境・民族考古学。1998年6月から2006年6月まで日本海セトロジー（鯨類学）研究グループ（現・日本セトロジー研究会）代表。2006年6月から世界連邦運動協会執行理事・同協会石川県連合会理事長。

竹田浩一准教授（2003-）

1951年3月石川県津幡町生まれ。1976年3月京都大学文学部卒業、1978年3月同大学大学院文学研究科修士課程修了、1982年3月同大学院文学研究科博士課程単位取得満期退学、同年4月1日に本学講師着任。ホワイトヘッドの「有機体の哲学」、ならびにライプニッツのモナド（单子）論を研究。本学奉職を機に西田哲学の研究を開始。また、本居宣長の思想に対しても哲学の見地から研究。さらにアリストテレスについての研究を深めている。



◇教育研究活動

1982・83年に石川県能都町（現・能登町）の真脇遺跡の縄文時代文化層から多量に出土したイルカ骨の調査を担当したことが契機となって、平口教授が



韓国鯨類研究所のロビーにて（2008年）

取り組み始めた先史捕鯨研究は、それにとどまらず、捕鯨史・捕鯨文化全体へと視野を広げることになった。その点、2002年から2006年にかけて山口県長門市、長崎県生月町（現・平戸市）、高知県室戸市、山口県下関市、和歌山県太地町で開催された日本伝統捕鯨地域サミットに企画段階から参加し、基調講演、パネリスト、コメンテーターなどを担当したのは、まことに貴重な体験であった。また、過去40年間に真脇遺跡と並んで東アジアの捕鯨史研究に重要な成果をもたらした韓国盤亀台岩刻画を、2008年5月第14回蔚山くじら祭りに参加した際に見学することができ、また蔚山南区にある韓国鯨類研究所において意見交換会を持つこともできた。

本学奉職以来、歴史学・人類学系の授業を担当してきた平口教授は、授業中に「戦争と平和」についても言及することがあったが、2001年9月11日に起きたアメリカ同時多発テロ事件以後の世界情勢を憂慮して、2003年に世界連邦運動協会と日本平和学会に入会し、大学における平和教育に本格的に取り

組むことになった。2009年11月22日に金沢市文化ホールで開催された第28回世界連邦日本大会では、実行委員会事務局長を務め、パネルディスカッション「世界連邦の実現に向けて～グローバル福祉社会の道を考える～」のコーディネイターも担当した。

現在、竹田准教授が取り組んでいる一連のアリストテレス研究は、本学の教養論文集ではVol.28(2000年)に掲載された「アリストテレスと西田幾多郎—カテゴリーと場所—」を端緒とする。その後、「アリストテレスの完全な推論式について」（Vol.31, 2003）、「アリストテレスの実体論」（Vol.32, 2004）、「アリストテレスの形而上学における本質と実体」（Vol.33, 2005）、「アリストテレスにおけるアナロギア」（Vol.34, 2006）、「アリストテレス『命題論』における三つの「ある」」（Vol.36, 2008）などを経て、後述の研究業績の末尾に記した3編の論文が発表されている。（平口哲夫）

◇主催した学会

第 13 回日本海セトロロジー研究会大会 (2002 年 6 月 15 日～16

日、東京都、国立科学博物館新宿分館、平口哲夫会長)

第 14 回日本海セトロロジー研究会大会 (2003 年 6 月 7 日～8 日、鳥取市、鳥取県民文化会館、平口哲夫会長)

第 15 回日本海セトロロジー研究会大会 (2004 年 7 月 3 日～4 日、金沢市、石川県立生涯学習センター、平口哲夫会長)

第 16 回日本海セトロロジー研究会大会 (2005 年 6 月 25 日～26 日、函館市、函館国際ホテル、平口哲夫会長)

第 19 回日本セトロロジー研究会大会 (2008 年 6 月 14 日～15 日、金沢市、KKR ホテル金沢、平口哲夫会長)

◇研究業績

1. 竹田浩一：五支論証から三支論証へ，金沢医大教養論集 2001;29:37-47.

2. 平口哲夫：日本沿岸の先史捕鯨文化，考古科学的研究法から見た木の文化・骨の文化（松井章編）

2003;131-152, クバプロ.

3. 平口哲夫：石器母岩別分析と動物遺体個体別分析—岩戸 I と真脇イルカー，芹沢先生追悼考古・民族・歴史学論叢 2008;111-117, 六一書房.

4. 竹田浩一，弁者の論理思想と古代ギリシャ哲学，金沢医大教養論集 2007;35:1-11.

5. 竹田浩一：アリストテレス『分析論後書』における帰納と論証，金沢医大教養論集 2010;38:1-14.

◇人事 (1972～2012 年)

| 氏名 | 在職期間 | 現職名 (退職・異動時) | 移籍 |
|-------|-----------------------|-----------------|----|
| 永守 良治 | 1972.4.1 - 1978.3.31 | (教授) | |
| 川西 友吉 | 1972.4.1 - 1978.3.31 | (教授) | |
| 古道 正道 | 1972.4.1 - 1982.3.31 | (教授) | |
| 平口 哲夫 | 1974.4.1 - 2011.3.31 | (特任教授) | |
| 吉永 亮 | 1974.4.1 - 1976.11.11 | ((講師) | |
| 関 善道 | 1981.4.1 - 1987.8.31) | (助教授) | |
| 竹田 浩一 | 1982.4.1 - | 准教授 | |

註：『金沢医科大学 40 年史』から転載、改変。「歴代教授、教室代表者」の顔写真については、原本掲載の画像の精度がよくなり、その元の画像データが手元にないので省略した。また、手元に元のカラー画像データがある場合は、カラー画像に換えた。